

(参考様式4)

事業所名 グループホームぶどうの家

目標達成計画

作成日: 令和 7年 4月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	外部評価に資する情報が少ない	利用者個々の口腔ケアに対する取り組みを、運営推進会議の構成員に伝えていく。	利用者に対するケアの取り組み状況や歯科往診の取り入れなどの具体的な内容を、運営推進会議の場で発信していく。	12ヶ月
2	31	外部評価に資する情報が少ない	排泄の自立に向けた取り組みを、運営推進会議の構成員に伝えていく。	排泄の自立に向けた取り組みやその成果の具体的な例を、運営推進会議の場で伝えていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述2
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎年度ごとのスローガンを職員の応募と投票により決定し、朝礼にて唱和しその実践を心がけている。 法人理念は施設内の目に触れやすい所に掲示するほか、毎月事務連絡等で発信している。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	同法人の放課後デイサービスや近隣の保育園、幼稚園とのプレゼント交換や、地域の配食サービスにプレゼントを作って配ったりと関りをもっている。 看護学生の実習を受け入れ、実習後は書面で質問事項のやりとりなども行っている。	・駒ヶ谷という歴史のある、又、村型のコミュニティという地域特性をうまく利用した交流が出来ている。 ・地元の杜本神社の祭りや幼稚園や学校の行事に参加したり、地域の配食サービスのプレゼント作りに参加していた。 ・独居老人宅への配食の際、手作りのプレゼントを配らせて頂いていますが、皆さんとても喜ばれています。 ・自己評価と同様、大いに評価する。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎奇数月に近隣の方や家族を招いて、運営推進会議を実施している。施設の活動状況や取り組みについて報告するほか、地域行事や活動の情報を教えて頂いている。	・行事や活動を写真などで会議の出席者に詳しく報告がなされている。 ・運営推進会議では取り組み状況等の話し合いを行い良かった点や、反省材料にして今後の活動に活かしていた。 ・今年度、事業所へ訪問したことがないので適正な評価をしかねる部分が少なくはない。 ・実施中の運営推進会議は地域の方との交流の場となっており良い雰囲気だが、事業所の評価を目指す報告や話し合いが欠けている。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	市の高年介護課、地域包括支援課等の担当窓口には介護保険制度の改正やサービスの取り組みなど、折に触れて相談に訪れている。	・発足当初から変わらず市の担当課と交流が出来ている。 ・市の事業(オレンジカフェや認知症推進員など)に大変積極的な活動をしており、大いに評価する。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束適正化委員会を法人として設置し、指針を作成し3か月に一度会議を実施している。また、毎年度勉強会を実施し、職員の身体拘束についての知識の向上と、意識向上につなげている。	・職員の勉強会等、意識を高めていることはプロとして素晴らしい ・今年度については、事業所へ訪問したことがないので分からない(自己評価に基づく評価のみ)	A. 十分にできている×5 B. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束防止に関しての委員会の設置、勉強会の実施による職員の意識の向上を評価されている。今後も継続的な実施による知識、。意識の向上に努めていく。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止委員会を設置するとともに、ついで勉強会を毎年度実施し、職員の知識と意識の向上に努めている。また、入浴時等のボディチェックを実施し、虐待の早期発見に努めるとともに、発見した際に速やかに関係機関と協力し対応する体制を整えている。	・駒ヶ谷地区において、虐待等の家庭、学校等の話題がない。意識が高くなっている。 ・今年度の運営推進会議においては虐待勉強会の報告あり。 ・職員方の取り組みを運営推進会議においても報告すべき。 ・事業所の透明性を図る為にも、ヒヤリハット・事故報告を運営推進会議中においても報告すべき。	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	委員会を設置と開催、勉強会による職員意識や知識の向上に努めているが、それだけでなくその内容、取り組みを運営推進会議で報告していく。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内研修で権利擁護や成年後見制度について職員が学ぶ場を持ち、日常の関りの中で本人の意思決定を尊重できるよう関係者と相談しながら支援している。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時や契約解除時に本人や家族等に不安や疑問等を伺い、対応についての説明や相談を十分に行っている。また、後々疑義が生じた場合は、いつでも相談を受け付けている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者からは日常の会話の中で、家族からは来訪時やライン等で、意見、要望を伺うほか、意見箱の設置も行っている。また、口頭による相談も常に受けつける体制を整えている。伺った意見や要望は、カンファレンス等に図り必要な対応をとるようにしている。	・より一層の対応を ・運営推進会議にて個人情報に留意したうえで、具体的な事例を伺いたい。 ・運営推進会議にご利用者や家族の参加行われていない為「外部者へ表せる機会」を損ねていると判断。	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている×1 C. あまりできていない×1 D. ほとんどできていない	いろいろな方法での意見の収集をおこなっていることは評価されているが、「外部者へ表せる機会」をしっかりと設ける為、運営推進会議への参加を家族に積極的に打診していく。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の朝礼やカンファレンス等で提案を聞いたり、個々に面談の場を設けて意見や提案を聞く機会を設けている。チーム手帳というスマートフォンアプリで部署毎に改善した点等共有し、ミーティング等に諮ったうえで活用可能なものは活用している。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の個性や能力に応じた活動を役割としてもってもらっている。勉強会を担当し、知識の定着と向上心を持てるようにしている。個々の面談の場において業務内容の相談を行っている。職員専用の休憩室を設け、食事代の補助も行っている	・職員が働き甲斐のある職場を作る。良い事である。 ・運営推進会議にて、職員の自発的な提案、取り組みなどの報告があれば、より良い評価が出来ると思う。	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	職員の能力ややりがいに配慮した取り組み、環境整備について評価されている。今後はそういった中での具体的な事案を、運営推進会議の場で紹介し評価に資するようになっていく。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外部研修を積極的に案内し、重要な研修には参加を勧めている。年間計画に基づいた内部研修を実施し、伝達研修等で全員が受講できる環境を整備している。資格取得の為の勤務調整も行っている。	・外部の者には見えにくい内容であるが、職員の一層の取り組みが期待される。 ・運営推進会議にて研修(虐待勉強会)は配布資料にて報告あり。 ・運営推進会議にて3事業所まとめた研修報告の為、評価しづらい(デイでの研修は評価外)	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている C. あまりできていない×1 D. ほとんどできていない 未評価×1	外部研修、内部研修への参加を積極的に勧め、内部研修を担当し、資料作成等を行う事でもスキルアップも図っている。資格取得の案内も提供し、様々な研修に参加できるよう勤務を調整するなどの取り組みをを継続する。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	GH 部会に参加し、事業者連絡協議会他、地域活動部会にも所属し、垣根を超えた交流を行っている。認知症地域支援推進員の活動も行っており、他事業所と共に認知症地域支援を行っている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症について勉強会等を通じて、適切な介護のもと利用者が自立した生活を送ることの大切さを学んでいる。表情や会話、気持ちに配慮しながら、日々の生活の中で気持ちを共有し、安心して暮らせる関係性の構築をしている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	LINE やメールにて日々の様子を家族に伝えたり、面会も居室にて同じ空間で過ごしてもらっている。外出、外泊についてはコロナ禍より一部制限をお願いしているが、順次緩和に向けて検討中である。	・コロナ禍の大変な中、交流の場、機会作りに苦心されている。 ・馴染みの人との交流は日々の生活に張り合いが出て明るくなる。		

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者が自身の意思決定のもと生活をしていると感じられるよう、利用者や家族から意見や要望を聞き対応している。本人の変化を支援記録や個人記録に記録し、職員間で共有している。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者や家族からの要望、主治医の意見、日頃の様子や気づき等をケアカンファレンスで共有し、本人本位の支援計画をたて、家族の了承を得ている。ヒヤリハット報告書や事故報告書も参照しながら、モニタリングを行い、状態変化を見直し。計画書の見直しを行っている。	・チームワークの良い職場、明るい職場、職員の皆さん明るくてよい ・理解しやすい計画書、家族からの質問にも丁寧に答えて頂いている。 ・運営推進会議にて、ヒヤリハット・事故報告は配布資料にて掲載はあるが、会議中の報告が全くな。また、ヒヤリハットの件数がなく、改善に繋がられているか疑問。 ・新聞に沿った報告は大変分かりやすい。	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	利用者本人や家族の意見、要望を丁寧かつ細目に聞き取り、カンファレンスの実施と情報の共有を確実にやっていく。起こった事故やヒヤリハットについてその内容と改善点を運営推進会議にて発信していく。

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の利用者の状態やバイタル記録、気づきやヒヤリハット内容をケース記録や支援経過記録へ記載し、職員間で情報共有をしている。またスマホのトーク（チーム手帳）も活用した各職員間での情報共有を活かしてケアカンファレンスを行い、計画書の見直しを随時行っている。	・より一層実践して下さい。 ・ヒヤリハット・事故報告から改善までを運営推進会議にて報告、更に様々な意見を得て改善に繋げる、また、質問を受けることにより気づきを見出すことも必要。	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている C. あまりできていない×1 D. ほとんどできていない 未評価×1	日々の記録をしっかりと行い、様々なツールを用いて職員間での意見交換や情報の共有を行っていく。利用者の細やかな変化に気づき、気づきやヒヤリハットの記録を充実させ、そのうえでカンファレンスを実施し、介護計画の見直しを図っていく。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者や家族の通院支援等の要望は、都度相談しながら柔軟に対応している。外出等についても、感染対策に協力いただくことで、時間や場所にとらわれず、柔軟に対応している。	・チームワークは一朝一夕にできないが、外出時の対応はすばらしい。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	民生委員、警察、消防等安心できる暮らしを支える地域機関との連携は保てている。消防訓練での消火器使用の練習や、配食サービスへのプレゼント作り等、それぞれの力を発揮しながら安全な暮らしを楽しめるように続けている。	・地域機関との連携は最高にうまくいっている。お互いの信頼関係は本当に強い。 ・民生委員が行う行事にも参加していたり、配食サービスのプレゼントも折り紙等を工夫していて楽しみにしている。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者や家族が希望するかかりつけ医を選んでいただいており、変更も自由である。受診時には最近の様子やバイタル記録等、必要な情報を準備し家族が同行できないときには職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者が入院した場合、その主治医をはじめ病院の医療連携室や専門機関と情報交換や相談を重ねて退院に向けた支援をしている。	・運営推進会議にて報告を受けている ・運営推進会議に診療所の医師や薬局薬剤師が参加し、具体的な報告を通じて普段から密な連携が出来た。 ・事業所隣の診療所精神科医との連携に取り組み始めたことも大変評価する。	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	医療関係との密な関係構築を評価されている。今後も素早く丁寧な対応の為に入院時に必要な基礎情報をまとめ、円滑な情報交換や相談が行えるような関係性の維持に努めていく。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化した場合の対応について指針を作成し、最善のケアについて利用者、家族に説明の上で同意書をかわし、方針を共有して家族が納得できるよう支援をしている。かかりつけ医とも連絡を密に行い、利用者の状態の共有を行っている。看取りの研修を定期的に行い、職員の	・仕事以上の内容でもある。人間性を高め、オーバーワークにならないよう望むところである。 ・運営推進会議にて看取りの研修についての報告を行い、構成員(特に地域住民)へ職員方の取り組みを理解してもらうことが必要。(運営推進会議中に職員方の頑張りについての評価がなかったことが残念)	A. 充分にできている×4 ㊤. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	利用者本人や家族と話し合いを続け、気持ちの変化を共有し、支援計画に反映させていく。利用者の細かな変化に気づいていけるよう研修や振り返りを通じて職員の意識や技術の向上をはかっていく。

				知識と技術や意識の向上を図っている。 看取り後の振り返りも続けている。			
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	㊤. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	緊急時対応マニュアルをフロアに掲示しマニュアルに沿った対応をするように徹底している。事故シミュレーションを2か月に1回行い、実際に事故が起こった際の対応を身につけている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	㊤. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回災害における避難訓練や消火訓練と2か月に1回のミニ避難訓練(災害時の想定訓練)を利用者にも参加してもらいながら実施している。BCPに基づく訓練も実施し、災害時用の備蓄、備品も整えられている。地元との関係も深く、協力体制も築けている。	・避難訓練の回数や内容は十分に思われるほど実施されている。管理者の防災の意識はかなり高い。 ・災害に対する予備知識や避難訓練を行い、意識も高まってきている。 ・運営推進会議にて毎年年度ごとに報告が必要。 (地域との連携を念頭に)	㊤. 十分にできている×6 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	消防訓練やミニ避難訓練、BCPに基づいた訓練を実施し、職員に必要な行動が定着するよう継続していく。また、その内容を運営推進会議の場で示し、構成員と共有していくことで、より一層の地域との協力体制の構築に努める。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修で挨拶や言葉遣い、身だしなみ、電話の対応方法を、プライバシー保護の勉強会においては尊厳の自由等毎年勉強している。待遇委員会を設置し、利用者への接し方や言葉遣いなど、職員同士で注意しあえる関係づくりに努めている。	・その人の個性もあり、大変な内容 ・事業所へ訪問していないので実際のところは分からない(自己評価に基づく評価のみ)	A. 十分にできている×4 ㊤. ほぼできている×2 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修を通じて職員の利用者に対しての人権意識の向上をはかり、日々の言葉遣いや身だしなみについても、接遇委員による日々の啓発を行ってだけでなく、職員が互いに指摘しあえる環境を維持、発展させていくように努める。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人のペースで過ごしてもらえるよう、日常のことから常に声かけを行い、意向を確認している。行事等においても参加の意思を確認し、自身の時間の使い方を自身で選んで頂いている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	㊤. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内で準備された食事を提供しているが、自家農園で収穫された野菜を使って利用者と一緒に追加の一品を作ったりもしている。洗ったり包丁で切ったりと食材の下準備も楽しんでいる。後片付けも協力してもらい、役割をこなす達成感を感じてもらっている。	・食事は一番のプログラム、皆と一緒に作り、食す流れを作っている職員にエールを ・運営推進会議で毎回、事業所の新聞に沿い自己評価の記述と同じ内容の報告を受けている。	㊤. 十分にできている×6 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員と一緒に、農園その他で収穫された作物を使って準備や調理を行っていただいたり、後片付けをしたりと、役割をもち達成する喜びを得る事が出来るよう継続していく。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	㊤. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	好みの飲み物を提供したりして水分摂取量が保持できるよう努めている。利用者に応じた食事形態と食事量を提供している。その日の状態に合わせて看護職とも			

				相談しながら、必要な栄養や水分が摂取出来るよう支援している。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事後は口腔ケアの声かけを行い、個々に合わせて実施の支援をしている。定期の歯科診療往診を受けていない利用者の歯の不具合時には、訪問歯科診療へつなげていくことを続けている。	・事故評価に基づく評価のみ ・運営推進会議での報告もあれば評価しやすい	A. 充分にできている×3 ㊤. ほぼできている×2 C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	口腔ケアの実施の支援と、口腔内の状態観察の実施、必要に応じた訪問歯科往診等につなげている。そうした内容の具体例を、運営推進会議で紹介していく。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者個々の排泄を記録していくことで排泄パターンを把握し、職員全員で共有している。声かけの時間を調整したり、本人の仕草などから排泄を察し、声かけ誘導しトイレで排泄する支援を続けている。排便の有無を確認し、便秘薬の服用等看護師と相談しながら対応している。	・体操で負担なく改善できる内容もあり、取り入れたらと思う。 ・事故評価に基づく評価のみ ・運営推進会議での報告もあれば評価しやすい	A. 充分にできている×3 ㊤. ほぼできている×2 C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	利用者個々の排泄状況をこまかく記録し、声かけや環境整備を実施し、変化する排泄パターンに応じて時間の調整等を行うことで、排泄の自立を促す支援を継続していく。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の身体状況に応じて一般浴や機械浴にて週3回の入浴を楽しんで頂いている。気が向かない時は翌日に振り替えたり、体調不良時には看護職とも相談しながら清拭等で清潔を保っている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の状態把握に努めながら、休息や、夜間の安眠を得られるよう、声かけにて意向を確認しながら、臥床や就寝時間調整など支援している。重度化された場合もポジショニングや適宜の体位交換等で体の負担を減らすよう努めている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	配薬時と服薬前に「薬事情報」を用いて用法、用量を必ずダブルチェックし、誤薬のないよう服薬支援をしている。薬剤師から薬の勉強会を実施してもらい、薬の効用や副作用について理解をする場を設けている。	・毎回の運営推進会議中にヒヤリハット・事故報告がない(報告書に日付の記載のみ) ・誤薬防止対策(工夫)の報告も行えば、職員方の様々な取り組みが運営推進会議構成員により理解してもらえ、適正な評価につながる。	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	誤薬がないよう十分に注意して日々の服薬をサポートしながら、薬事情報を職員で共有し、服用目的や副作用等について理解していく。薬剤師の方にも協力してもらい、勉強会等で薬についての知識を深めていく。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者との会話や家族からの聞き取りで趣味や興味、生活歴を把握し、それぞれの好みに合わせた役割を提供している。	・利用者やその家族との話し合いが密に行われている。かなり多くの楽しみ事が実施出来ている。 ・利用者を理解するため、情報を収集したり声かけをよくしている。		

				家族から嗜好品を預かり、食事やオヤツで提供したり、好みのレクリエーションの声かけを日々行っている。	・運営推進会議で毎回、事業所の新聞に沿い自己評価の記述と同じ内容の報告を受けている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近隣を散歩したり、園芸作業をしたり、自家農園に行って季節の野菜を収穫し調理して頂いている。外出が出来ない方には、季節の花を居室に飾ったり、季節の野菜を見てもらったりしている。月ごとに作製している壁画を見てもらったりと、少しでも季節を感じてもらえるよう支援している。	・暑すぎる、又、寒すぎると極端な気候となった今、外出支援はなかなか大変だと思われる。 ・四季を感じるために外出は必要であり、生き生きと生活するためにも大事なことである。 ・運営推進会議で毎回、事業所の新聞に沿い自己評価の記述と同じ内容の報告を受けている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている ㊟. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内では金銭を使う場面はないが、レクリエーション等で金銭に準じた物を配り、おやつの際にそれを支払いに用いてもらったりといったことをしている。コロナ前は買い物に行ったりした際に支払いを一緒にしたりしていた。今後また、そういった活動も取り入れていきたい。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人希望で常時可能な体制を取っている。個人持ちの携帯電話の持ち込みも可能である。 ラインのビデオ通話を使って顔を見ながら話をしたりもして頂いている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の能力や身体状況に合わせた生活が出来るように見守りや声かけ、介助を行っている。食堂兼リビング、廊下等は家庭的な雰囲気になるよう装飾等に配慮している。季節感のある作品を皆で作成して飾ったりして、季節感と生活感が感じられるようにしている。	・会議の内容からは理解できる。会議の一環として施設内の見学等が必要。 ・今年度、事業所へ訪問していないので実際には分からない(新聞からのみの評価)	㊟. 十分にできている×5 B. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	リビングや共有スペースは、利用者の動きを妨げないよう物の配置や数に気を付けながらも、皆で作った季節感のある作品を飾るなど、季節を感じながら穏やかに過ごしていける工夫をこれからも続けていく。
Ⅳ. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者や家族に今までの暮らしの延長の生活が送れるよう希望を聞いている。利用者の希望の確認が困難な場合は、家族と相談しながら生活を組み立て、役割を持って過ごして頂いている。			

41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に利用者や家族から生活歴や習慣について聞き取りを行い、アセスメントやフェースシートへ記録して把握をしている。面会時等折に触れての聞き取りを継続し、ケアプランに反映しサービス提供を行っている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の日々の状態を把握し、家族とも共有している。状態に変化がみられた時は介護と看護で連携して状態把握に努め、速やかに家族、かかりつけ医に連絡し相談している。	・近親者がお世話になったこともあり、理解できる。 ・今年度の運営推進会議で、自己評価の記述と同じ内容の報告を受けている。	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の日々の状態観察をこまめに行い、看護師とも情報共有しながら状態把握に努める。日ごろから主治医と情報共有を密にし、変化があった際は素早く対応していく。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人一人のペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。行事等への参加についても、意見を確認し、自身の過ごし方は自身で決めて頂くようにしている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自室には使い慣れた家具や仏壇などを置かれたり、家族の写真やご自身の作品などを飾って頂いている。思い出のある物は自室の中で大事に保管して身近に持つことができている。	・今年度、事業所へ訪問していないので実際には分からない(新聞からのみの評価)	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 未評価×1	家族と協力しながら、利用者にとって大切な物、使い慣れた物を身近に感じ、これまでの自身の生活や家族の思いを感じながら生活を送って頂けるようにしていく。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 充分にできている ㊤. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近隣の神社へのお参りやお花見など、季節を感じられるような外出や、日々の散歩の声かけを行っている。希望に応じて戸外へ出かけられるようにしている。	・利用者の意向を尊重し、外出や催事の参加は元気の源である。安全に気をつける必要あり。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者に合わせた役割を、その日の気分を声かけして確認しながら行ってもらっている。その日のしたいことをしてもらうよう希望を確認し、利用者自身で選んだことを楽しんでもらっている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の趣味や家事を日常的に行って頂いている。家族や友人と面会だけでなく、ビデオ通話で話したりしている。仕事や趣味、生活歴について、当時のことをいきいきと話して頂けるように会話している。	・施設の前の庭や畑で花、作物を作っている。良いプログラムと察す。 ・事故評価に基づく評価のみ ・運営推進会議での報告もあれば評価しやすい	㊤. 充分にできている×5 B. ほぼできている×1 C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常生活の会話の中で昔の生活歴や仕事のことをいきいきと熱く語っていただくことや、手作業の配分等、日々の過ごし方を自身で決めることで、納得し満足しながら生活をおくっていただけるよう努める。

48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり、交流することができている	A. 充分にできている Ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近隣の幼稚園や保育園との、季節行事の手作りのプレゼント交換をしたり、地域の配食サービスへのプレゼントを作り、地域の人々と交流を続けている。	・コロナやインフルエンザなどの感染症が増える中、交流の難しさがある。 ・近隣地域の人との関りは本人を含めいきいきと過ごす生活につながると思う。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は利用者との信頼関係を築けるよう、日々利用者の気持ちに寄り添いながら、安心できるような声かけや対応を行っている。散歩や地域行事に参加し、地域の方と関わりながら、安心して日々を過ごして頂いている。	・神社の祭り等に参加、楽しそうにしている。 ・職員と利用者が楽しんで日常を送っている。 ・職員は利用者との信頼関係が大変である。そのためには声かけや情報の収集、共有を図ることが大切である。また地域との良好な関わりも重要と考える。 ・自己評価と同様、大いに評価する。	Ⓐ. 充分にできている × 6 B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者との関わりの時間をしっかりと確保し、その中で知り得た情報を職員間で共有していくことで、利用者が孤独を感じず、共に生活を送っていると感じ、安心して生き生きと生活できるよう努める。